

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530594

研究課題名（和文）中学生のカウンセラーに対する被援助志向性を高めるための介入プログラムの開発

研究課題名（英文）Developing an intervention program to enhance junior high school students' preferences for seeking help from school counselor.

研究代表者

水野 治久 (MIZUNO HARUHISA)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：80282937

研究成果の概要（和文）：本研究は中学生を対象にスクールカウンセラーに対する被援助志向性を高める介入プログラムを開発することを目的に実施された。中学生に対する量的な調査から、落ち込みに対する否定認識、情動コンピテンスが被援助志向性に関連していることが確認された。そこで、落ち込みに対する認識、情動コンピテンスに介入し、カウンセラーとの接触場面をもうける50分の介入プログラムを作成し、中学生に実施した。その結果、中学生のスクールカウンセラーに対する被援助志向性得点は改善された。

研究成果の概要（英文）：This study aims to develop an intervention program that enhances junior high school students' preferences for seeking help from their school counselors. From qualitative studies, recognitions of depression and emotional competences and contact experiences with school counselors were identified as predictors of help-seeking preferences. The researchers of this study developed fifty-minute intervention programs that focused on these indicators. The participant of this program answered help-seeking preferences scale and found positive effects on their scores.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：教育相談

1. 研究開始当初の背景

文科省におけるスクールカウンセラーの配置事業が進み一定の効果を上げているが、筆者らが調査した結果によると適応得点の低い中学生ほどスクールカウンセラーの援助には否定的な認識を持っていることが明らかになった。

2. 研究の目的

本研究では中学生を対象にスクールカウンセラーに対する被援助志向性を高めるための介入プログラムを開発することを目的とした。

3. 研究の方法

研究1では中学生369名を対象に質問紙調査を行った。研究2では、中学生420名を対象に、研究3では中学生302名を対象に質問紙調査を実施した。研究4では、中学生153名を対象に、50分の介入プログラムを実施した。

4. 研究成果

(1) 情動コンピテンスと被援助志向性の関連

研究1では中学生369名を対象に質問紙調査を行い、情動コンピテンス尺度とスクールカウンセラーに対する被援助志向性の関連を検討した。その結果、情動コンピテンスと被援助志向性の一部の下位尺度で関連が認められたが、その関連はそれほど高いものではなかった。

(2) 落ち込みに対する否定的認識と被援助志向性の関連

研究2では、中学生420名を対象にメンタルヘルスリテラシーを落ち込みの否定的認識という尺度を用いて測定した。そして、情動コンピテンス、落ち込みに対する否定的認識が被援助志向性に与える影響を検討した。その結果、情動コンピテンスとともに、落ち込みに対する否定的認識も被援助志向性に影響を与えていることが明らかになった。

(3) 落ち込みに対する否定的認識尺度の再検討

研究3では、研究2で作成した落ち込みに対する否定的尺度を再度検討するために中学生302名を対象に質問紙調査を実施した。そして、スクールカウンセラーとの接触、情動コンピテンス、落ち込みに対する否定的認識がスクールカウンセラーに対する被援助志向性に与える影響について検討した。その結果、スクールカウンセラーとの接触、情動コンピテンスが被援助志向性に影響していた。落ち込みに対する否定的認識は被援助志向性に影響が認められなかった。援助ニーズ群においては、落ち込みに対する否定的認識の下位尺度である〈努力不足〉が高いほど、カウンセラーの援助に対する抵抗感が低くなった。これは研究2と矛盾する結果であった。

(4) スクールカウンセラーの被援助志向性を高めるための介入プログラムの効果

今までの研究成果から、自分の気持ちに気づくこと、落ち込みに対して否定的な捉え方をしないこと、スクールカウンセラーとの接触場面を設けることが被援助志向性を高める可能性が示唆された。そこで研究4では、中学生153名を対象に、50分の介入プログラムを実施した。効果を確認するため、被援助志向性尺度、落ち込みに対する否定的認識尺

度を介入1週間前、介入1週間後に測定した。その結果、プログラム介入前と介入後では、被援助志向性得点、落ち込みに対する否定的認識得点が改善し、中学生はカウンセラーの援助に対して肯定的に捉えるようになった可能性がある(表1・2参照)。

表1 介入プログラムが被援助志向性尺度の下位尺度得点に与える影響

	n	介入前	介入後	t 値
援助の肯定的側面	152	17.868 (3.778)	18.507 (3.926)	2.48*
落ち込みの受容	141	13.844 (3.127)	12.504 (3.731)	4.49**

* $p < .05$, ** $p < .01$

表2 介入プログラムが落ち込みに対する否定的認識尺度の下位尺度得点に与える影響

	n	介入前	介入後	t 値
対処不足	126	21.801 (4.209)	20.000 (3.668)	5.41**
落ち込みの受容	153	12.928 (2.423)	13.046 (2.284)	-.58
努力不足	153	8.889 (1.786)	8.497 (1.717)	2.49*

* $p < .05$, ** $p < .01$

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 水野治久・山口豊一・石隈利紀 中学生のスクールカウンセラーに対する被援助志向性—接触仮説に焦点をあてて— コミュニティ心理学研究, 査読有, 12巻, 2号 2009 170-180.
- ② 水野治久 他者からのサポートを得るエクササイズ 学校における「心理教育」とは何か 児童心理別冊 903号 (10月号), 査読無, 2009, pp. 138-142
- ③ 水野治久 自立した人間は依存しない人間か?—甘え上手を育てる— 児童心理, 911 (4月号), 金子書房, 査読無, 2010, pp. 18-22
- ④ 水野治久 自立的な被援助性 (help-seeking) とはどのようなものか 児童心理, 940 (11月号) 金子書房, 査読無, 2011 pp. 18-23.
- ⑤ 八鍬真理子・水野治久 大学生の情動コンピテンス, 心の病に関する否定的認識が大学生のカウンセラーに対する援助不安に及ぼす影響 カウンセリング研究 査読有, 44巻, 2号 2011 48-157.

[学会発表] (計5件)

- ① 水野治久・山口豊一 中学生の情動コンピテンスとスクールカウンセラーに対する被援助志向性の関連 日本教育心理学会

第 51 会総会発表論文集(静岡大学), 2009,
p707

- ②水野治久・永井智・岩瀧大樹・本田真大 日
本心理学会ワークショップ 子どもの同
士の支え合いは可能か 援助要請研究の
応用を考える 日本心理学会第 73 回大会
(立命館大学) 2009
- ③河村茂雄・品田笑子・伊佐貢一・水野治久・
鈴木敏城・石隈利紀 教育実践を充実さ
せる学級経営 日本教育心理学会第 52 回
総会論文集(早稲田大学) 2010, pp. 82-83.
- ④水野治久・林照子・山口豊一 メンタルヘ
ルスリテラシー, 情動コンピテンスがスク
ールカウンセラーに対する被援助志向性に
及ぼす影響 日本心理学会第74回大会発表
論文集(大阪大学), 2010 , p. 1243.
- ⑤飯田敏晴・木村真人・永井智・小池春妙・
後藤綾文・成田絵史・水野治久 我が国
における援助要請研究の新たな視点～理
論の構築と効果的な実践を目指して～
日本教育心理学会第 53 回総会自主シンポ
ジウム(北海道学校心理士会・北翔大学)
2011

[図書] (計 1 件)

- ①水野治久 子どもは教師に相談するのか
—子どもの被援助志向性にそった教育相
談のあり方— 大久保智生・牧郁子編 実
践をふりかえるための教育心理学—教育
心理にまつわる言説を疑う— ナカニシ
ヤ出版, 2011 , pp. 145-157

6. 研究組織

(1)研究代表者

水野 治久 (MIZUNO HARUHISA)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：80282937

(2)研究分担者

山口 豊一(YAMAGUCHI TOYOKAZU)
跡見学園女子大学・文学部・教授
研究者番号：10348154